

環境検討部会（第7回）議事概要

1. 日 時：令和元年10月9日（水）14：30～16：30
2. 場 所：思川西部土地改良区 会議室
3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事概要

本部会で検討した内容は、（1）今後進めていく事項、（2）今後検討・確認する事項に分けて整理する。

（1）今回決定した事項

◆工事の概略スケジュールについて

（委員）

令和元年度において改修工事を予定している施設及び区間（新荒川排水路：L=780m、新荒川排水路の環境配慮施設（ワンド）；1ヶ所）の施工スケジュールについて確認。

◆ワンドへの水生植物の移植について

（委員）

令和元年度において工事予定のワンドに対し、当面は水生植物の移植は行わず、経過を観察することとする。

（2）今後検討・確認する事項

◆生物調査の結果の整理について

（委員）

工事の影響について評価するため、季節毎の比較や経年的な比較等、いくつかの視点から整理し、客観的な議論ができるようにすべき。

（委員）

細砂や泥を好む魚類がいるので、このような底質の有無と生息する魚類の関係について整理すると良い。

◆ドブガイについて

（委員）

タイリクバラタナゴが確認されている排水路においては、ドブガイ等の産卵母貝の存在に注意して調査を行う。

◆水生植物の移植について

(委員)

今回の結果について、何が悪かったのか科学的根拠に基づいて分析し、仮説に基づいて次の対策を実践するなど、アダプティブマネジメントを行うことが重要。

(委員)

移植方法については、水生植物の専門家にアドバイスを求めることが必要。

(事務局)

移植方法については、移植時期や底質等の条件について試行錯誤を行うことを検討する。

◆環境配慮施設の検討案について

(委員)

令和元年度の工事区間についても、魚類の生息場を確保するためナガエミクリだけではなく、オオカナダモ等も含めた水生植物が生育できる構造を検討すべき。

(委員)

玄手川の事例のように、水路中心部は通水を重視するが、両岸は石詰とする等の水生植物に配慮した構造を検討されたい。

(事務局)

今回提示した案を基に、維持管理や排水機能、構造上の安全性等を勘案し検討する。

◆与良川排水機場の景観配慮について

(委員)

外観の色彩は、淡い色の方が周辺になじむと考える。

(委員)

排水機場の環境学習施設等への活用については、地域活性化の観点からも重要であるため、前向きに検討してほしい。

(事務局)

小山市と調整を進める。